

令和7年度 浜松市立北部中学校 学校評価報告書

1 自己評価の結果より

(1)生徒用アンケート

○「当てはまる」と「やや当てはまる」で85%を超えたものは

| | |
|--|--------|
| ・私は、学校行事に積極的に取り組み、自分を高める（達成感を得る）ことができた。 | 91.90% |
| ・私は、自分のあこがれる生き方について考えたり、他の人の考えを聞いたりしている。 | 85.30% |
| ・私は、授業に意欲的に取り組んでいる。 | 93.30% |
| ・先生は、わかりやすく授業を進めている。 | 96.10% |
| ・先生は、授業で話し合ったり、友達と力を合わせて取り組んだりする機会をしっかりと設けている。 | 99.10% |
| ・先生は、授業で自分の考えをまとめる機会をしっかりと設けている。 | 97.50% |
| ・私は、部活動（校外活動）に目標をもって取り組んでいる(いた)。 | 95.50% |
| ・私は、気持ちのよいあいさつを進んで行っている。 | 88.50% |
| ・私は、学校での自分の役割(委員、係、清掃等)に積極的に取り組んでいる。 | 95.80% |
| ・私は、時間や学校のきまりを守り、規則正しい生活をしている。 | 92.90% |
| ・私は、登下校や家庭生活において、交通マナーをしっかりと守っている。 | 98.90% |
| ・私の学級、学校は、安心できる場所だと感じている。 | 88.10% |
| ・先生は、学校生活の中で自分によく声をかけてくれている。 | 91.20% |
| ・学校は、情報をたよりなどでわかりやすく発信している。 | 94.80% |
| ・私は、北部中学校での学校生活が充実していると感じている。 | 94.00% |

【考察】

生徒の回答で特徴的なのは、学習環境への満足度がさらに向上している一方で、生活習慣や内面的な部分でわずかな低下が見られる点である。昨年度と比較し、「授業の分かりやすさ」については、94.5% → 96.1%(+1.6pt)となっており、もともと高評価であるが、さらに向上しており、教員の授業改善の努力が結実している。しかし、その一方で「家庭でも学習する時間を設けている」については63.8% → 64.3%(+0.5pt)と大きな変化は見られないが、引き続き家庭での学習習慣の定着が課題である。また、「自分のよいところを知っている」では、78.8% → 77.2%(-1.6pt)となっており、自己肯定感に関わる取組の継続が課題と考えられる。

(2)保護者用アンケート

○「当てはまる」と「やや当てはまる」で85%を超えたものは

| | |
|--------------------------------------|-------|
| ・お子さんは、登下校や家庭生活において、交通マナーをしっかりと守っている | 97.3% |
| ・お子さんの北部中学校での学校生活は充実している。 | 93.3% |
| ・学校行事は、お子さんの成長をうながすものになっている。 | 94.4% |

| | |
|---|-------|
| ・部活動は、お子さんにとって充実感を感じられるものであり、心身の成長にも役立っている。 | 86.6% |
| ・命の大切さについて教えている。 | 86.3% |
| ・社会のルールやマナーについて伝えている。 | 92.4% |
| ・いじめのない集団作りに努めている。 | 89.7% |
| ・生徒一人一人の理解に努めている。 | 86.0% |
| ・三者面談等の充実に努めており、相談しやすい。 | 86.7% |
| ・情報をたよりなどでわかりやすく発信している。 | 89.0% |

【考察】

昨年度と比較をし、「学校生活の充実」87.3% → 93.3%(+6.0pt)となっており、「学校が楽しそうである」という実感が大きく伸びているとともに、「社会ルール・マナー指導」93.7% → 92.4%(-1.3pt)となっており、学校の生活指導に対する安心感が高水準で維持されていると考えられる。その一方で、「家庭学習の時間確保」51.1% → 45.3%(-5.8pt)と大きく低下しており、5割を切る深刻な課題となっている。授業の評価は高いが、それが家庭での「学力向上」の実感に結びついていないギャップがあると考えられる。

(3)教師用アンケート

1. 本校の良さ

教員の組織力と教育活動への真摯な姿勢が最大の強みである。特に「授業改善」や「誠実な対人対応(生徒・保護者対応)」において、教員全員が肯定的な回答をしており、指導の質の高さが伺える。また、危機管理や安全点検に対しても組織的に迅速に対応できており、学校運営の基盤が非常に強固である。

2. 課題

「働き方改革」と「外部(家庭・地域)との連携」に明確な課題がある。自身の働き方改善や業務改善に対する肯定率は約50%にとどまり、教職員の多忙感が依然として強いことが分かる。また、地域資源を教育活動に取り入れる項目も他の設問に比べ数値が低く、組織として外部に開かれた活動を推進する余地が残されている。

3. 全体考察

全体として、教職員は高い専門性と職責意識を持ち、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導を実践している。その一方で、その教育の質が教員の個々の努力や長時間労働に支えられている側面も否定できない。持続可能な教育環境を維持するためには、業務の精選を加速させ、教員の心理的・時間的余裕を生み出すことが、結果として教育目標のさらなる具現化に繋がると考えられる。

2 学校関係者評価

2月6日(金)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・中学生のわが子には LINE のフィルタリング機能を使っている。今後は学校から子供に教育も続けていきながら、子供たちを守っていくために保護者に対しても啓蒙活動や、SNS にかげられるフィルターの紹介などの教育も必要になってくるかと感じている。
- ・生徒から授業に対するアンケートの評価が高かった。授業が充実しているがゆえに自宅での学習がおろそかになってはいないだろうかかと危惧する面もある。家庭学習のモチベーションが上がるように先生から宿題プラスアルファ意欲の出る課題が出れば子どもが机に向かう時間も増え、キャリア教育の中で生徒それぞれの将来に必要な教科などのアドバイスがあれば家庭学習がよりよくなるのではないかと感じた。
- ・自分の職場でも職員満足度アンケートというものがあるが、北部中の先生方のアンケート結果のように「全職員が協力できる雰囲気職員室であった」という項目が 100 パーセントというのは、なかったことがない。先生方みんながよい雰囲気の中で生徒指導や授業ができている状態が、来年度も続いてほしいと願う。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・生徒への継続的な指導に加え、保護者の IT リテラシー向上を目指した啓発活動を強化する。具体的には、保護者会等の機会にフィルタリング機能の紹介や SNS の危険性を共有し、家庭内でのルール作りを支援する。
- ・授業の充実を家庭学習に繋げるため、生徒個々の進路や興味に関連した「探究型課題」を提示する。将来の目標に必要な学習内容を具体的にアドバイスすることで、生徒が自発的に机に向かう意欲と習慣を育成する。
- ・全職員が協力的な現在の職場環境を維持しつつ、チーム力を活かした組織的な生徒指導を継続する。教職員の心理的余裕を授業準備や生徒との対話時間に充てることで、教育の質をさらに高める好循環を定着させる。